Management Club Report

Apr.2018/Vol.184

Monthly Opinion　≪“成功院長”と“要注意院長”≫

日本歯科新聞社が発行する月刊誌『アポロニア21』の５月号に「歯科医院経営コンサルタント紹介特集」という記事が掲載される予定です。

『アポロニア21』は、私どもの創業当初７年間に亘って、歯科医療サービス論や組織論についての執筆を連載いただくなど、水谷編集長には大変お世話になりましたが、今回久々にご要請を頂きましたので、私もこの19年間に主張してきたことや実施してきたことと共に、依頼を受けた事柄に対する私なりの考え方をまとめてみようと思いました。

依頼を受けたテーマには「歯科医院の成功とは」「成功院長の特徴」「要注意院長の特徴」「気をつけるべき経営のターニングポイント」「医院でお勧めの設備やツール」といったものがありました。与えられたページ数は２ページでしたのでこれらを網羅するとなると相当引き絞らなくてはならず、十分には伝えきれない点もありましたが、大変興味深い内容ではありました。自分の考え方は果たして正しいのだろうか？他のコンサルタントの人たちはどのように考えているのだろうか？サラリーマン時代には大きな組織の中で様々な意見交流がありましたので、ともすると独り善がりに陥りがちなところを軌道修正する機会がありましたが、独立してからはそういった面での刺激が乏しく、違った角度からのコンサルタントとしての感覚を学ばなければいけないと強く思っています。

「自分を疑う」ことの重要性を3月21日の『折々のことば』で再確認しましたが、歯科医院の院長先生方も、「自分の思想の限られたレパートリーの中に安住せず、常に“自分を疑う”ようにしてみる」ことをお勧めします。そういう意味でも、『アポロニア21』の５月号の特集は、サラッとしたものではあるかもしれませんが一読に値します。定期購読されていない方も是非５月号はお買い求めになっていただきたいと思います。

1　『成功院長』になるための第１要素

成功院長の特徴を一面的に特定はできない

成功している院長の特徴は何か？要注意院長の特徴は何か？そう問われましても一概にこれとこれなどと特定するのはいずれにおいても難しいでしょう。色々な人がいますし、同じようなタイプの院長が、揃って成功しているとも限りませんし、またうまくいっていないとも限りません。

立地の問題、環境の問題、投資額の問題、勤務医やスタッフの問題等々さまざま